

安倍9条改憲

ねらいは…



海外で血を流す

自衛隊

に

今回の参院選では、安倍首相が自衛隊を明記する改憲案を掲げ「改憲を議論する党か、しない党か」と、改憲を前面に訴え。にもかかわらず、改憲勢力は3分の2の議席を割り込みました。「性急な改憲ノ一」が民意です。

安倍首相「軍事同盟は血の同盟」

“憲法に自衛隊を書き込む”という安倍首相。かつて自著に「軍事同盟とは“血の同盟”」「日米安保条約を堂々たる双務性にしていこう」と書きました。“米軍を守るために日本が戦わないのは不公平だ”というトランプ大統領と同じです。海外で米軍のために若者の血を流させる—これが9条改憲の目的です。

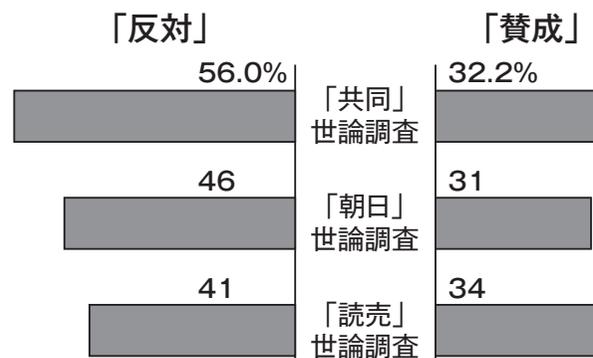
対案は「日本国憲法」です

いま変えるべきは憲法でなく、憲法を踏みにじってきた安倍政治です。9条を生かした平和外交、25条の社会保障、26条の教育を受ける権利…力を合わせて、この憲法を実現していきましょう。

政策合意で野党は結束を

首相は野党の中にも改憲に前向きな人がいるとして、野党にも協力を呼びかけたいといいます。しかし5野党・会派が市民連合と合意した共通政策には、「安倍政権のもとでの9条改憲に反対する。発議も許さない」と明記されています。国民の多数は、9条改憲に反対です。参院選での民意は「性急な改憲ノ一」。合意の線で一致結束することが求められています。

安倍改憲に世論は「反対」



※「共同」と「朝日」の世論調査（いずれも22、23日実施）の質問は「安倍晋三首相の下での改憲について」。「読売」の世論調査（15日発表）の質問は「憲法9条に自衛隊の存在を明記する条文を追加する安倍首相の考えについて」。

イラン沖 自衛隊派兵許されない

米政権がイラン沖に「有志連合」をつくると表明し、日本の対応が問題になっています。イランをめぐる危機はアメリカが核合意から一方的に離脱したことが始まり。自ら危機をつ

くっておきながら、軍事的対応に乗り出すことはまったく道理がありません。自衛隊は派兵すべきではありません。イランに自制を求めるとともに、トランプ政権にイラン核合意に戻るよう働きかける外交努力こそ必要です。

野党共闘 前進 改憲3分の2打ち砕く



当選確実の報に沸く滋賀・嘉田由紀子氏(中央)の陣営

改憲勢力の3分の2割れに決定的役割を果たしたのが市民と野党の共闘。参院選で大きく前進しました。滋賀には首相自ら2度応援に入りましたが、4野党は10回に及ぶ協議を重ねて作り上げた9項目の共通政策で結束。自民現職を打ち破りました。当選した嘉田由紀子氏の得票は野党4党の比例票合計の1.64倍でした。

「れいわ」と手を携える

共産党の志位和夫委員長は22日、「れいわ新選組」について「(政策が) 私たちと共通する方向ではないか」「手を携えて日本の政治を良くしていく、いまの政治を変えていくうえでの協力関係を強めたい」と述べました。